



(1) 立命館大学の6つのキャンパス

京都市北区に位置する「衣笠キャンパス」には法学部、産業社会学部、国際関係学部、文学部が、びわこ文化公園都市に隣接した「びわこ・くさつキャンパス」には経済学部、スポーツ健康科学部、食マネジメント学部、理工学部、生命科学部、薬学部がある。また、経営学部、政策科学部、総合心理学部、グローバル教養学部を置く「大阪いばらきキャンパス」には、2024年度から映像学部、情報理工学部も設置。ほかに「朱雀キャンパス」「東京キャンパス」「大阪梅田キャンパス」がある。

(2) 創立125周年プロジェクト

①教育・研究の更なる高度化、②研究高度化の包括的加速、など5つのプロジェクトがある。「デザイン・アート学部の設置に伴う教育環境の充実」は①に含まれる。②には開設30周年を迎えるびわこ・くさつキャンパスにおいて、国内で初めて「宇宙での生存権拡大」に焦点を当て設置した「宇宙地球探査研究センター(ESEC)」の先進的な研究展開や、ウェルビーイング分野における新たな研究領域の開拓、スタートアップの創出などが挙げられる。

https://www.ritsumeai.ac.jp/125th/

(3) デザイン・アート学部 / デザイン・アート学研究科 (仮称)

入学定員：学部180名 / 博士課程前期20名、同後期5名
学位名称：学士(デザイン・アート) / 修士・博士(デザイン・アート学)
設置キャンパス：衣笠キャンパス
資格課程(学部)：学芸員

(4) アート・リサーチセンター

衣笠総合研究機構に所属する機関で、1998年に設立された。芸術、芸能、技術、技能を中心とした有形・無形の文化遺産を、歴史的・社会的観点から研究・分析し、記録・整理・保存・発信することを目的とし、文理融合・連携を前提とした研究を展開している。特にデジタル・ヒューマニティーズ型研究の国際拠点として、世界水準の研究拠点の形成を目指している。

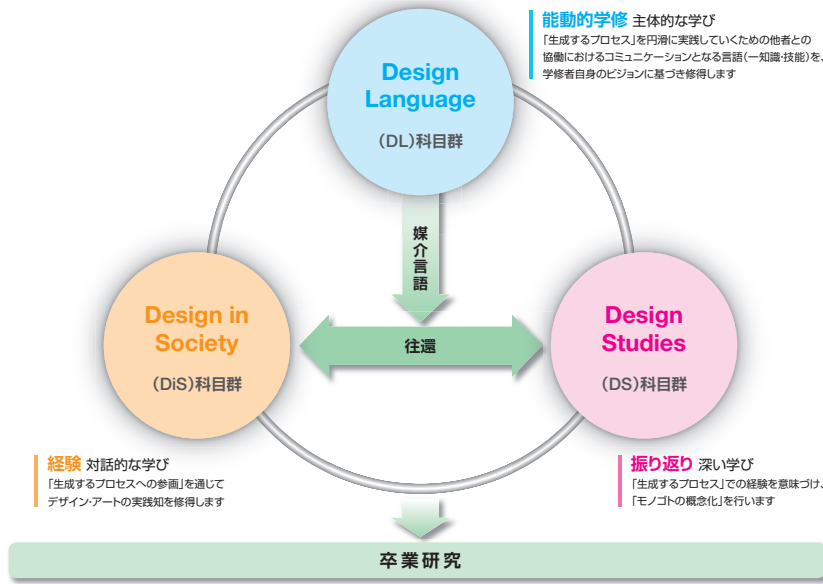
(5) Design Language (DL)

知識群では「デザイン理論」「視覚芸術表現論」「デジタルメディアデザイン論」「コ・デザイン論」「歴史まちづくり論」「アート・マネジメント論」など、技能群では「デザインリサーチ」「デジタルアート表現」「フィジカルアート表現」「デジタル文化資源の活用実習」「デザインとバーチャリアリティ」「コミュニティデザイン」「デザインエスノグラフィ」など広範囲な科目がある。



複雑な課題に直面する現代社会において、予測が難しい不安な時代であるからこそ、立命館大学は、失敗を恐れず、新たな価値の創造と地球規模の問題解決に挑戦し続け、未来を切り拓きます。

デザイン・アート学部(仮称)の学びのフィールド



能動的学修 主体的な学び
「生成するプロセス」を円滑に実践していくための他者との協働におけるコミュニケーションとなる言語(一知識・技能)を、学修者自身のビジョンに基づき修得します

経験 対話的な学び
「生成するプロセスへの参画」を通じてデザイン・アートの実践性を修得します

振り返り 深い学び
「生成するプロセス」での経験を意味づけ、「モノコトの概念化」を行います

京都の街がフィールド
未来志向のデザイン学を深める
デザイン・アート学部(仮称)の教育カリキュラムでは、美的感性に裏打ちされた「問題解決力」「問い直し力」「共創力」「問題発見力」「創造的思考力」などを総合的に身につけながら、クリエイティブで柔軟な思考を涵養し、創造性に満ちた文化的生活や社会生活様式、あるべき未来社会像を具現化できる人材を育成します。

さらに、立命館大学にはデジタル・アーカイブスの世界的研究拠点であるアート・リサーチセンターがあり、その豊富な文化資産データベースや人的ネットワークを研究者のみならず、今後学部生の教育利用も検討していきます。
他者との協働において生成されるプロセスで学ぶ
想定されるカリキュラムの専門必修科目には、Design in Society (DIS)、Design Studies (DS)、Design Language (DL)の3つの大きな科目区分があります。

領域から理論的・実践的アプローチを学び、3年生までに多様な国内外の社会実践事例やDISでの自分の学びを概念化し、意味づけられるようになることを目指します。DLは「生成するプロセス」において、他者との協働を円滑に効果的に実践していくための「知識」「技能」を「言語」と捉えた科目群です。これらの科目やゼミ、プロジェクト参加や留学などを通して、1年生から4年生まで、創造的で共感できるビジョンを探索しながら、それを他者と共有し巻き込んでいく研究・制作活動を行うことで、デザイン・アートの視座から未来社会を透視し、あるべき生活世界の新たな理念形成を推進していく人材を育成します。
なお、卒業研究、並びに総合大学の特長を生かした幅広い分野の教養教育と、グローバル社会に欠かせない語学教育も必修となります。
複雑な課題に直面する現代社会において、予測が難しい不安な時代であるからこそ、立命館大学は、失敗を恐れず、新たな価値の創造と地球規模の問題解決に挑戦し続け、未来を切り拓きます。



なかたによしお
仲谷善雄学長
1981年大阪大学人間科学部人間科学科卒業。89年学術博士(神戸大学)。2004立命館大学理工学研究所所長。情報理工学部長、副学長等を経て、19年より学校法人立命館総長兼立命館大学学長。専門分野は防災システム、人工知能、ヒューマンインターフェイス、認知工学など。

2025年に創立125周年を迎える立命館大学は、建学の精神「自由と清新」と教学の理念「平和と民主主義」、立命館憲章に基づき、「未来を信じ、未来に生きる」精神をもった人材を育成し、普遍的価値の創造と人類的諸課題の解明に積極的に取り組んできました。今日では社会科学、人文科学から自然科学まで、16学部21研究科を擁するわが国屈指の総合大学に発展。海外を含め、全国から集まったおよそ3万4000人の学部生と約4000人の大学院生が多様な豊かな教育・研究活動に取り組んでいます。

2026年度からは、世界的な文化都市、古都・京都にある大学の利点を活かし、デザイン・アート学部とデザイン・アート学研究科(仮称)の新設を構想。新たな価値を生み出し、社会課題の解決に努めながら、立命館大学は「次世代研究大学」としての道を邁進します。

立命館大学

〒604-8520 京都府京都市中京区西ノ京朱雀町1 総合企画部広報課 TEL 075-813-8300 https://www.ritsumeai.ac.jp/

「挑戦をもつと自由に」
125周年を控え
デザイン・アート学部(仮称)設置構想で
新たな価値創造に挑む
「次世代研究大学」

創立125周年の節目に
社会に新たな価値を創る
「桂園時代」を築き、最後の元老とも称された政治家で、教育者でもあった西園寺公望が1869年に創設した私塾「立命館」に端を発する立命館大学。6つのキャンパスを有し、学部生だけでも3万4000人を数え、全国からの学生と共に80カ国・地域から3000人を超える留学生が学ぶわが国屈指の多様な豊かな総合大学です。
政財界から文化・芸術・スポーツ界まで数多くの人材が輩出していることはもちろん、世界水準の研究も盛んで、文部科学省の科学研究費助成事業(科研費)の配分額が西日本の私立大学で1位(23年度)。「世界のトップ2%の科学」(米国スタンフォード大学・エルゼビア社)に44人の教員が入るなど、卓越した研究活動が高く評価されています。
2030年に「次世代研究大学」になる目標を掲げた「学園ビジョンR2030『挑戦をもつと自由に』」を策定した立命館大学は、急激に変

化する社会の中で、未来のあるべき姿を積極的に提起し、多様な人々が集う学園を創造し、希望に満ちた未来をつなげるよう、社会に新しい価値を創るチャレンジに挑んでいます。さらに「R2030立命館チャレンジ・デザイン」を打ち出し、2030年に向けた大学全体のチャレンジ・デザインと、各学部・研究科の将来計画の方向性、各キャンパス・部門の基本課題を示しました。
また、2025年に創始155周年、創立125周年を迎える立命館大学では、「RITSUMEIKAN FOR SOCIAL IMPACT」をモットーに、2024・26年にかけてさまざまなプロジェクト、記念事業を実施します。
デザイン・アート学部 / デザイン・アート学研究科(仮称)
2026年度に新設予定(設置構想中)

こうして一連の改革の中で、17番目となる新学部の設置構想が生まれました。芸術と文化の街、古都・京都にある大学ならではの新領域「デザイン・アート学部およびデザイン・アート学研究科(仮称)」で、映像学部にも注目の芸術領域の学部となります。
これまで、さまざまな解釈の「デザイン」が多様な学問分野やプロジェクト、ビジネスの現場などに使われてきましたが、新学部ではデザインを研究の中心に据え、新たな学問領域として「デザイン学」を捉えています。
国でも、文化芸術立国の実現に向けた「文化芸術推進基本計画(第一期)(2018年)や「高度デザイン人材育成ガイドライン」(2019年)を策定するなど、デザイン・アートがもたらす価値の創出と人材の育成への期待が高まっています。
デザイン・アート学部 / デザイン・アート学研究科(仮称)では、フィジカルからデジタルに拡張し融合した未来の生活世界を、感性豊かに創造できる次世代の人材を育成します。

